

東川アウトドアフェスティバルの歩み① ～はじまり～

町に雪の気配が始まる11月初旬。大雪山は既に純白のウエアを着ているが、登山ガイドの私たちにとってはオフシーズン。白くなった大雪山を眺めるたびに雪山への思いははやるが、山スキーにはまだ早い。そんな時期でも、町にいてもアウトドアの楽しさや自然の美しさと脅威までも感じていたい。これから迎える冬に向けて、山人たちとそんな感覚をともにしたい。

2011年、そんな思いから始めたのが「バンフ・マウンテン・フィルム・フェスティバルin東川」。エベレスト級の国際アウトドア映画祭で選出された映像作品の上映会だ。当時は、町内のイベントも少なく、特にこの時期、東川を訪れる人も少ない。これをきっかけに、大雪山や東川の魅力も発信できたら、という思いもあった。

なぜ「バンフ～」か？ 登山に目覚め、山に魅了されたカナダ留学時代。試験に追われていた時に、ふと目に止まった「バンフ～」のポスター。その時から、私の「バンフ～」への憧れが始まっていた。

帰国後、旭岳をきっかけに東川へ移住。大雪山



Nature Column (ネーチャーコラム)
自然ガイドなどで活躍する人々をリレーしています。

の自然や東川を通して、なんとなくカナダとつながってられる気がした。

そんな時、某アウトドアメーカーが「バンフ～」を日本で上映開始。そのメーカーと繋がりがあったことが幸いして、陰ながらの多大なる応援と、東川の山仲間たちの協力によって「バンフ～」上映会の機会を得た。

「赤字になったら、コンビニで夜間バイトをすれば、どうにかなるべ」。そう思いつつも、多くの人に来てもらいたく、ちらし配りによく歩いた。その中でいろいろな人と出会い、大変良くしてもらった。

旭川の某大型書店では、世界中を放浪した、という店長さんが手作り感たっぷりのチケットを取り扱ってくれた。私自身、イベントの活動を通して出会う人々からパワーをたくさんいただいた。そして、継続する大切さ。“東川のバンフ～”は、4回目の開催時では新企画も加わり、“HOF(ホフ)”=東川アウトドアフェスティバルと成長した。

(続く)

東川アウトドアフェスティバル実行委員長、山ガイド
青木倫子



ウズベキスタンの結婚式

東川町国際交流員 (CIR) ナルギーザ (ナノ) ・ニグマノヴァ

今回はウズベキスタンの伝統的な結婚式についてご紹介します。

結婚式の日の朝5時ごろ、「プロフ」というウズベク人の伝統的な料理をつくります。花婿にももらった米100キロ、油100リットル、にんじん100キロ、そして羊の肉からプロフを作って、やって来た客たちにごちそうします。

プロフを作るのも客も、男性ばかりです。プロフを作る前日、おじいさんが材料のにんじんを切り、羊も解体しておきます。プロフに来る客の数は一般的にとても多く、500人の場合も千人の場合もあります。普通一人分は米100キロほどです。プロフで使う肉と米の量は来る客の人数次第です。

花婿は自分が花嫁の家へ行く前に演奏者を行かせ、ホーンのような伝統的な楽器を3時間ぐらい吹かせます。その日の正午ごろ、花婿は友達と一緒に花嫁の所へ行って、イスラム教の僧侶がお祈りを唱えて二人を



結婚させます。僧侶の祈りの後で二人は夫婦になります。役所への届けも必要です。

結婚式の日の夜、盛大なパーティーがあります。ウズベク人は賑やかで客が多い結婚式が好きなので、普通100人ぐらい客を招待します。300人招待することも珍しくありません。結婚式では皆食べたり、ダンスをしたりして祝います。

その翌朝、花嫁の挨拶という儀式が行われます。家の庭には、花婿の親、親戚、隣人と知り合いが集まり、順番に花嫁にプレゼントを渡し、新郎者の幸福を祈るのです。花嫁は全員に頭を下げて深々と3回のお辞儀をして挨拶し、結婚式は終了します。

家族生活が始まり、新婚夫婦は2人のために用意された部屋で暮らします。その間、花嫁は花婿側から用意された伝統的な何着もの衣装で着飾るのです。